



発行所

一般社団法人 全日本木材市場連盟
編集・発行人 東京都文京区後楽1-7-12
電話 03(3818)2906
FAX 03(3818)2907
毎月1回1日発行
定価 年3,000円
(会員は会費に含まれています。)

中央需給情報連絡協議会 開催

令和3年度第1回国産材の安定供給体制の構築に向けた中央需給情報連絡協議会が令和3年9月10日(金)にウェブ会議で開催された。参加者は、林野庁、学識経験者、素材生産、森林組合、木材加工・流通、木材輸出入、建設、製紙・紙パルプ、木質バイオマス発電、苗木生産、森林整備、都道府県、地区別協議会事務局、国土交通省、林野庁の提出資料及び説明の概要は以下のとおり。

【木材輸入の状況(2021年7月実績)】

- 1. 米国における木材価格の高騰
○米国の住宅着工戸数(戸建て計)は、コロナ禍による在宅需要の増加と住宅ローンの低金利により、昨年5月から急増。本年3月に173万戸(年率換算)を記録。本年7月は、前月比▲7%減の153万戸。
○北米の木材価格も、昨年夏から急激に上昇。一時下落したものの、年末から再び上昇して、本年5月には1,494ドル/mbfを記録。以後、急落して、本年8月は前月比▲20%の389ドル/mbf。コロナ禍以前と同レベルまで低下。
○2020年末から、米国での輸入急増

とコロナ禍に伴う港湾処理能力の低下等により、北米にコンテナが滞留して、アジアでコンテナが不足。海上輸送運賃が急激に値上がり。本年7月は、欧州発が横ばいとなる一方、米国発は依然として上昇。

2. 2021年1~7月の木材輸入実績
○本年1~7月の木材輸入額累計は、前年同期比+9%増の6,373億円。

○品目別の輸入量累計を見ると、製材が同▲16%、集成材が同▲16%減少する一方、丸太が同+9%、合板が同+0%増加。EUの製材・集成材、ロシアの製材、米国の丸太が減少する一方、カナダの丸太が増加。

○なお、2019年同期と比較すると、本年1~7月の木材輸入額累計は同▲10%減少。品目別では、丸太が同▲16%、製材が同▲21%、合板が同▲7%、集成材が同▲4%減少。

3. 製材・集成材の月別輸入量
○2021年7月の製材輸入量は、前月比+6%増の45.1万m(前年同月比▲8%減)。1~7月の累計は、前年同期比▲16%減(2019年同期比▲21%減)。

○同月の集成材輸入量は、前月比+1%増の8.8万m(前年同月比▲15%減)。

1~7月の累計は、前年同期比▲16%減(2019年同期比▲4%減)。

4. 北米からの月別輸入量
○2021年7月のカナダからの製材輸入量は、前月比+5%増の12.6万m(前年同月比+34%増)。1~7月の累計は、前年同期比▲0%の減(2019年同期比▲15%減)。

○同月の米国からの丸太輸入量は、前月比▲25%減の10.5万m(前年同月比▲28%減)。1~7月の累計は、前年同期比▲12%の減(2019年同期比▲4%減)。

5. 欧州からの月別輸入量
○2021年7月のEUからの製材輸入量は、前月比+5%増の19.0万m(前年同月比▲29%減)。1~7月の累計は、前年同期比▲21%の減(2019年同期比▲22%減)。

○同月のEUからの集成材輸入量は、前月比▲0%減の7.0万m(前年同月比▲20%減)。1~7月の累計は、前年同期比▲19%の減(2019年同期比▲5%減)。

6. 製材・構造用集成材の輸入平均単価
○本年7月の製材輸入平均単価(総輸入額/総輸入量)は、前月比+7%増の54,950円/m(前年同月比+51%)。うち、カナダの製材は、前月比+17%増の82,022円/m(前年同月比+112%)、EUの製材は、前月比+6%増の42,739円/m(前年同月比+36%)。

○同月のEUからの構造用集成材輸入平均単価は、前月比+4%増の53,568円/m(前年同月比+15%)。

(参考) 欧州・中国における木材需要の動向
○EUでは、コロナ禍により、昨年春に建設活動が急落したが、夏以降は回復して、以後、堅調に推移。

○欧州の事業者は、鉄道で輸送できる域内市場や、高価格が期待できる米国への輸出に注力。

○中国では、木材需要の増加が継続。過去10年で、針葉樹丸太輸入量は1.8倍に増加。世界各地から、木材を買い集め。

【木材需給動向について(全国)】

1. 価格の動向
(1) 原木価格(原木市場・共販所)
ア. スギ(全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m

○2021年に入ってから、例年であれば春から梅雨時期にかけて原木価格が下落する時期にもかかわらず、4月以降、上昇が見られる地域が多く見られる。九州地域では価格が高騰したが、直近では下落傾向も見られる。

○直近のスギ原木価格は、前年同期比25%から62%増となっている。

スギ原木価格

Table with 4 columns: 都道府県, 2021年直近※, 前年同期, 前年同期比. Rows include 北海道, 秋田県, 栃木県, 長野県, 岡山県, 高知県, 熊本県, 宮崎県.

※秋田県、栃木県、長野県、岡山県、高知県、熊本県及び宮崎県については8月、北海道については7月の値を使用。
注1：北海道はカラマツ(工場着価格)。
注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

イ. ヒノキ(全国) 径24cm程度、長3.65m

○ヒノキにおいてもスギと同様の傾向にあり、2020年6月頃の価格は例年以上に大きく低下したが、2021年に入ってから、例年であれば原木価格が下落する時期にもかかわらず、全ての地域で大きく上昇したが、直近では下落も見られる。

○直近のヒノキ原木価格は、前年同期比58%から200%増となっている。

ヒノキ原木価格

都道府県	2021年	前年	前年
	直近※	同期	同期比
■兵庫県	33,000	11,000	200%
■岡山県	34,000	17,500	94%
■広島県	36,000	14,100	155%
■愛媛県	32,000	15,000	113%
■高知県	32,500	15,000	117%
■熊本県	28,000	16,800	67%
■大分県	27,000	17,200	58%

※兵庫県、岡山県、広島県、高知県、熊本県及び大分県については8月、愛媛県については7月の値を使用。
注：都道府県が選定した特定の原木市場・集散所の価格。

(2) 製品価格

○輸入材製品価格は、北米、中国、欧州など世界的な木材不足に加え、コンテナ不足による運送コストの増大等により高騰。

○国産材の代替需要が発生し、国産材製品価格も上昇が続いている。

2. 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材(全国)

○製材品の生産量及び出荷量は、2021年1月から増加傾向。コロナ感染拡大

前の水準となっている。
○原木の入荷量及び消費量においても、2021年1月から増加傾向。

(2) 合板(全国)

○合板の生産量及び出荷量は、2021年2月から増加傾向。コロナ感染拡大前の水準となっている。一方、在庫量は2020年6月以降減少傾向で推移。
○原木の入荷量・消費量は、2020年9月以降、上昇傾向にある。

製材品出荷量の月別推移(全国)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1~7月出荷量伸び率	14%	11%	14%	-5%	27%
1~7月出荷量合計(千m ³)	5,332	5,267	5,385	4,717	5,197

資料：農林水産省「製材統計」

合板出荷量の月別推移(全国)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1~7月出荷量伸び率	10%	3%	5%	-8%	8%
1~7月出荷量合計(千m ³)	1,828	1,826	1,945	1,703	1,890

資料：農林水産省「合板統計」

(3) チップ(全国)

○パルプ用チップの消費については、輸入広葉樹チップの消費量は2020年4月

から6月まで激減した。その後は回復傾向。国産針葉樹チップの消費量は、2020年5月に大きく減少したが、その後回復した。
○木質バイオマス発電向け燃料は、増加傾向が続いている。
3. 住宅着工戸数の動向・全国(2018年1月~2021年7月)
○2020年の新設住宅着工戸数は、81.5万戸(前年比9.9%減)、このうち木造住宅は46.9万戸(同10.3%減)。

住宅着工戸数

構造別の着工戸数	2021年	前年	前年	前々年	前々年
	1~7月	同期	同期比	同期	同期比
合計	489,192	468,927	4.3%	528,354	-7.4%
非木造	208,715	202,964	2.8%	226,993	-8.1%
木造	280,477	265,963	5.5%	301,361	-6.9%
木造プレハブ	5,567	6,075	-8.4%	7,012	-20.6%
2x4	52,430	52,576	-0.3%	61,889	-15.3%
在来軸組	222,480	207,312	7.3%	232,460	-4.3%
木造率	57.3%	56.7%		57.0%	

資料：国土交通省「住宅着工統計」

○2021年1~7月の新設住宅着工戸数は、48.9万戸(前年比4.3%増)、このうち木造住宅は28.0万戸(同5.5%増)。
○2020年は緊急事態宣言の発令により、住宅展示場の来場者数が落ち込むなど大手・注文住宅の受注機会が大幅に減少したが、郊外の戸建住宅に需要が高まるなど全体としてはリーマンショック時ほどの落ち込みは見られなかった。
【主な意見】
1. 輸入材の状況、川下の動向等
・北米材製品の輸入量は、7~9月期で前年同期比約70%、10~12月期で前年同期比約75%となる見通し。
・欧州材の製材・集材の輸入量は、7~9月期で前年同期比約80%、10~12月期は前年同期比並の低調なものとなる見通し。
・合板輸入は、第3四半期分は前年同期比では大幅に増加しているが、需要に対して十分な量となるかは微妙。仮需が収まればバランスが取れるのではないかと。
・住宅着工は、住団連の出している景況感では、見通しは明るい。展示場の客も戻ってきており、今年度は90万台まで回復する可能性も。
・関東ではレッドウッド、ホワイトウッドの集材等の品薄が続いている。木材以外の建築資材全般も値上がりし、建築費が一棟200~300万円値上がりして契約に至りにくい状況となり、工務店からの相談も相次いでいる。危機的状況である。
・8月に工務店へのアンケートを実施したところ、ウッドショックの始まっている

た5月よりも、木材の調達状況、価格の状況等さらに悪化している状況。全国の会員からの要望も資料に掲載している。

2. 川中、川上の状況

・合板の生産状況は、昨年は落ち込んだが、今年1〜7月の生産量の累計は対前年比7・3%増となっており、年間ペースでは2018年の水準程度に戻ると思われるが、これ以上の増産は難しい。原木は、西日本で逼迫の度合いが強く、東日本からも調達している状況。

・集成材の生産は、9月末までの見込みで、小断面(管柱)は103%、中断面(梁)は100%という状態。スギ集成材メーカーの増産が顕著。原料ラミナ在庫は、1ヶ月を下回ることもあるが、何とか3ヶ月分というところで、当面生産量は横ばいの見通し。

・全国平均では、スギ・ヒノキともに上げ幅は春先からは落ち着いたものの、昨年比でスギは1・5倍、ヒノキは2倍と依然として高値で推移。数量的には昨年の1・5倍。今後、原木不足が続くのか、相場が維持できるのか注視したい。

・製材能力に余力がある九州では原木価格が上昇しているが、関東以北は製材能力がボトルネックとなつて価格上昇が緩やかなのではないかと。合板向け原木の価格が上がれば、原木が出てくるのではないかと。

・国産JAS製品の流通量を増やす必要。

3. 各地区からの報告

・北海道地区：道産材の建築材としての利用率を高めることが課題。安定供給・安定利用をどう担保するか、さらに議論

が必要。

・東北地区：川上、川中、川下でリードタイムがそれぞれ違う。中長期的にはサプライチェーンを見直しすることが課題。国産材にもリスタがあることを踏まえつつ、シェア拡大に取り組む必要。今後は、丸太不足が拡大する懸念がある。

・関東地区：地区内で程度の差はあるが構造材が足りない。乾燥が追いつかない。森林組合連合会と合板工場との協議中だが、協定価格も上昇の見込み。

・中部地区：最終的にサプライチェーンをどう作るかが課題。川上、川中、川下と広いキャパがあり、この優位性をどう活かすか議論を進めたい。

・近畿中国：安定供給に向けては、民有林の集約化やインフラ整備、人材確保、乾燥設備整備が課題。川下からも国産材を使っていくんだという仕組み作りが必要。協議会において、長期的な視点に立つての情報交換をしたい。8月は出材にブレキがかかり、回復は9月下旬以降を見込む。

・四国地区：素材生産は順調だが、お盆期間の長雨が影響。これ以上の増産は、間伐を主伐に変えていく必要があるが、その場合は再造林が必要となる。インフラ整備のほか、労働力確保が課題。先が見通せず、材価暴落の懸念もある。

・九州地区：原木価格は6月末がピークで、8月末から値下がり傾向だが全体的に高値で、スギ・ヒノキ共に昨年の約2倍の価格となっている。原木需要は旺盛。製品は、7月をピークに落ち着きを見せ始めた。資源確保のための再造林の重要性についても声があった。

4. 全体

・これから素材生産が増える時期となり、原木不足は緩和される可能性があるのではないかと。サプライチェーンをしっかりとつなげ、丸太の供給を増やし、川中は需要にあつた製品を工務店に供給していくことが重要。

・安定供給、安定取引の重要性を再認識。地域によっては、協定取引が履行されないケースがあるとは聞いているが、一方でうまくいっているところは、価格変動がある程度押さえられたものと認識。今後、川上から川中、川中から川下の長期安定取引が今後重要となる。

なお、議事次第、出席者、配付資料及び議事概要等については、林野庁ウェブサイトの以下URLに掲載。
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/ryutsu/kyougikahtml>

■第49回JAS製材品普及推進展示会

1. 岡山会場(株)津山総合木材市場
第49回JAS製材品普及推進展示会が9月2日(木)、(株)津山総合木材市場(木下恒久社長)で開催された。展示会には、8社から100㎡のヒノキ構造材を主体とするJAS製材品が出品され、新型コロナウイルス禍の中、感染予防対策を徹底し、活発な競りが行われた。同審査会は前日の1日(水)に開催。信田聡審査委員長をはじめとする審査員による厳正な審査が行われた結果、多くの出品が高評価を得た。(株)津山総合木材市場

並びに津山会場での審査会に御出席いただいた審査委員、岡山県、消費安全技術センター(神戸センター)及び全木研、検査員をはじめとする関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。



「審査・計測の様子」



「JAS 展示即売会の様子」



「審査・計測の様子」

2. 愛知会場―(株)東海木材相互市場 大口市場
 9月17日(金)には、(株)東海木材相互市場(鈴木和雄社長)大口市場において、JAS製材品の普及推進展示会が開催された。展示会には、17社から141㎡のヒノキ構造材を主体とするJAS製材品が出品され、新型コロナウイルス禍の中、感染予防対策を徹底し、活発な競りが行われた。前日の16日(木)の審査会では、信田聡審査委員長をはじめとする審査員による厳正な審査が行われ、多くの出品が高い評価を得た。(株)東海木材相互市場大口市場並びに愛知会場での審査会に御出席いただいた審査委員、愛知県、消費安全技術センター(名古屋センター)及び全木研、検査員を始めとする関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。また、当日は、第59回東濃ヒノキ展示即売会と原木の市売りも行われ、多くの買い手が訪れ、活況を呈した。



「展示会の様子」

■各地でSCM推進フォーラム開催

1. 岐阜県SCM推進フォーラム第一回 情報交換会―令和3年8月24日(火) 情報交換会―令和3年8月25日(水)
2. 埼玉県SCM推進フォーラム第一回 情報交換会―令和3年8月27日(金)
3. 徳島県SCM推進フォーラム第一回 情報交換会―令和3年8月31日(火)
4. 富山県SCM推進フォーラム第一回 情報交換会―令和3年9月6日(月)
5. 京都府SCM推進フォーラム第一回 情報交換会―令和3年9月9日(木)
6. 福島県SCM推進フォーラム第二回 情報交換会―令和3年9月10日(金)
7. 第三回情報交換会―9月22日(水)
8. 山形県SCM推進フォーラム第一回 情報交換会―令和3年9月13日(月)
9. 福岡県SCM推進フォーラム第一回

情報交換会―令和3年9月21日(火)

■林野庁の人事異動 (10月1日付、敬称略)

・(農業者年金基金理事) ↑石垣英司(四国森林管理局長) ↑橋本裕治(農水産業協同組合貯金保険機構理事)・(退職) ↑柳田真一郎(東北森林管理局長) ↑宮澤俊輔(農林漁業信用基金理事) ↑吉村洋(林野庁国有林野部付)・(農畜産業振興機構理事) ↑上大田光成(関東森林管理局長) ↑赤崎暢彦(水資源機構理事)・(消費・安全局食品安全政策課食品安全情報分析官) ↑山口琢磨(近畿中国森林管理局長) ↑柏原卓司(大臣官房付)・(林野庁林政課林業・木材産業分析官) ↑飯塚淳(関東局日光森林管理署長) ↑徳川浩一(林野庁計画課付)・(森林総合研究所総合調整室長) ↑橋爪一彰(北海道局日高北部森林管理署長) ↑門脇大輔(北海道局企画課長)・(退職) ↑松永彦次(近畿中国局計画課全部長) ↑三浦祥子(森林整備センター森林管理部上席参事) ↑金子直樹(関東局計画課長)・(林野庁計画課付) ↑武田祐介(近畿中国局三重森林管理署長) ↑石上公彦(近畿中国局兵庫森林管理署長) ↑高柳威晴(林野庁森林利用課企画課長補佐) ↑三重野信(大臣官房新事業・食品産業部食品製造課規格専門官) ↑川原聡(林野庁業務課供給企画課長補佐) ↑近藤昭夫(同木材産業課企画課長補佐) ↑竹本央記(同木材産業課住宅資材課長補佐)・(同木材産業課木材技術課長補佐) ↑日向潔美(同木材産業課木材専門官) ↑長谷川太一(同林政課人事第一班秘書係長)

雑記帳

秋の日差しが山歩きは心地よく、キノコの季節。キノコは健康食品と言われる、主な栄養素は、炭水化物、タンパク質、脂質、灰分。マツタケやシイタケは炭水化物が多く、マイタケやマッシュルームはタンパク質が多い。言われてみるとそういう気がする。シイタケは乾燥するとグルタミン酸が増えうまみが増す。脂質は動脈硬化の予防によいと言われるリノール酸など。キノコは食物繊維を多く含み、シイタケやエノキのグラム当たりの食物繊維はタケノコよりも多い。キノコ食は免疫力を高め、発癌や癌の進行を遅らせるともいわれる。コレステロール低下作用や血圧降下作用もあるようだ。ヤマブシタケからみつけた成分は脳の神経細胞の消失を防ぎ、認知症予防の効果があるのでないかと期待されている。一方、テングタケのように猛毒を有するものもある。ニガクリタケは山でよく見かけるが毒性が強いので食べてはいけない。ちよつと不思議で危ないのはホテイシメジ。それだけで食べても問題ないが、アルコールと合わせると頭痛、息切れ、二日酔いになるらしい。アルコールは肝臓でまず有害なアルデヒドに分解され、次に無害な酢酸に分解される。このキノコはアルデヒドの分解を阻害する物質を有している。二日酔いの状態が続く。しかもこの阻害物質は体内に数日間残留するので、これを食べたらしばらくは要禁酒。ところでキノコにはウイルスに対する免疫力を高める成分ないのだろうか。たぶんあると思いつつながらキノコ料理を楽しみたい。